

紅一点じゃ、足りない。

(平成25年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズ)

第1部 基調講演

リーダーの役割と こころのケア



講師

結城 美智子

(ゆうき みちこ) さん

[福島県立医科大学看護学部教授]

[いわき平サロン「ひなたぼっこ」運営責任者]



東日本大震災から2年以上が経ち、これからの生活について現実的に考える段階に入りました。阪神淡路大震災の経験からも、今後は心のケアが大切です。私たちは昨年11月上旬から、いわき市平に「ひなたぼっこ」というサロンを開設しています。被災者や避難者はもちろん被災者支援をしている人も利用できます。

震災と原発事故を経験した福島県では、全ての県民が直接的・間接的に被災していますが、被災者や避難者を支援しているリーダーには特有のストレス反応があります。例えば、「私にしかできない」と背負う状態に

あったり、燃え尽き症候群になったりします。また、被災者が自立していくと喪失感を感じたり、日常生活に戻っても疎外感を感じたりします。一人ひとりがストレス症状を自己チェックして、心と体の異変に気づき、適切なケアをすることが大切です。

リーダーの役割と心のケアにおいては、「自分の気持ちと考えを大切にし、同時に相手の気持ちと尊重するコミュニケーション」が重要です。お互いが率直に、素直に、正直に自分の気持ちや考えを伝えあい、聴きあうことを実践していただきたいと思います。

第2部 市民活動報告

男女共同参画に関する 各団体の市民活動



中野 理恵

(なかの りえ) さん

[国際女性教育振興会いわき]

[いわき市男女共同参画情報紙

Wing 編集長]

[アートディレクター/デザイナー]



丹野 ジュリエッタ

(たんの じゅりえった) さん

[いわきフィリピーノコミュニティ]



前田 アイダ

(まえだ あいだ) さん

[いわきフィリピーノコミュニティ]



和田 アン マーガレット

(わだ あん まーがれっと) さん

[いわきフィリピーノコミュニティ]

【海外視察研修報告】

フランスにおける ワーク・ライフ・バランス

中野さん



フランスは日本より男女平等が進んでいるイメージがありました。しかし実際は、「様々な制度を整えても、人々の意識(メンタリティ)が変わらない」といふフランスと日本の共通課題が見えてきました。

訪問先の1つ、ロクシタンは世界でも有名な化粧品メーカーで、女性を多く雇用しています。本社従業員の55%、管理職の62%が女性です。それでもトップクラスの管理職は40%にとどまっています。「会社が制度を整えるだけでなく、従業員の意識も変わる必要がある」という説明を受けました。

また、女性の権利省を訪問し、フランスでも賃金格差、DV被害、固定的役割分担意識などの課題があることを知りました。これらの対策として、国民への教育や、メディアへの働きかけ、大臣クラスへの意識改革、ある程度の強制力などが挙げられました。

今回の視察により、男女共同参画には「意識(メンタリティ)改革」が必要だとあらためて認識しました。

【リレートーク】

いわきフィリピーノコミュニティ の活動

丹野さん・前田さん・和田さん



いわきフィリピーノコミュニティは、いわき市在住フィリピン人のグループです。メンバーは、日本人と結婚している人や長期の仕事しながら定住している人たちです。地域住民の皆さんとも良い関係を築いています。また、定期的にフィリピン料理を持ち寄り、お互いの近況報告や意見交換、相談などを行っています。

東日本大震災では、多くのメンバーが被災しました。日本語が苦手なため、文化の違いや日本の法律に関する情報不足といった新たな問題に直面しました。

震災後、日本各地のフィリピンコミュニティより支援を受けてイベントを開催しました。また、国際結婚夫婦の子どもたちに日本語を教えています。さらに、在日フィリピン人向けの乳がん早期発見ワークショップも行いました。

コミュニティのために活動するのはとても幸せです。これからもグループで広く協力し合いながら、地域社会と温かい関係を築くことを大切にしたいです。